

製品名: MALT1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13608**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 90kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | MALT1 |
| 別名 | MALT1; MLT; Mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma translocation protein 1; MALT lymphoma-associated translocation; Paracaspase |
| 遺伝子 ID | 10892.0 |
| SwissProt ID | Q9UDY8 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト MALT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 301-350 |

背景

この遺伝子は、粘膜関連リンパ組織リンパ腫において、バキュロウイルス IAP リピート含有タンパク質 3（アポトーシス抑制因子 2 と

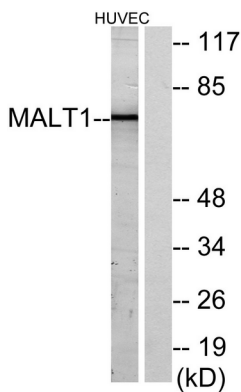
しても知られる) および免疫グロブリン重鎖遺伝子座という 2つの他の遺伝子との染色体転座において、反復的に再構成されることが発見されている。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、NF-κB の活性化に関与している可能性がある。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする 2つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

疾患: MALT1 に関連する染色体異常は、低悪性度粘膜関連リンパ組織 (MALT リンパ腫) において反復的に認められる。BIRC2 との転座 t(11;18)(q21;q21)。この転座は、細胞遺伝学的に異常のある低悪性度 MALT リンパ腫の約 50%に見られます。機能:BCL10 誘導性の NF-κB 活性化を促進します。BCL10 の核外輸送に関与しています。TRAF6 に結合し、TRAF6 オリゴマー化とリガーゼ活性の活性化を引き起こします。ユビキチンリガーゼ活性があります。MALT1 依存性 BCL-10 切断は、T 細胞抗原受容体誘導性のインテグリン接着において重要な役割を果たしています。類似性:ペプチダーゼ C14B ファミリーに属します。類似性:デスドメインを 1つ含みます。類似性:Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを 2つ含みます。細胞内局在:核と細胞質の間を往復します。BCL10 と共に核周縁構造中に存在します。サブユニット: Ig 様ドメインを介して BCL10 に結合します。TRAF6 に結合するオリゴマーを形成します。組織特異性: 末梢血単核細胞で高発現しています。骨髄、胸腺、リンパ節では低濃度で、結腸および肺では極めて低濃度で検出されます。、

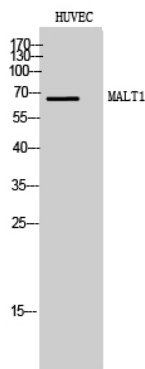
研究分野

T 細胞受容体;B 細胞抗原;

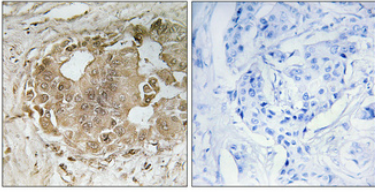
画像データ



MALT1 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



MALT1 ポリクローナル抗体を用いた HUVEC 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。